

## 1 丹沢大山の自然環境の保全に関する研究開発

- (1) 課題名 1-3 自然環境の統合的な管理技術の研究開発  
B ヤマビルの防除技術の開発に関する共同研究  
a ヤマビルの生息分布に関する調査研究

- (2) 研究期間 平成19～20年度  
(3) 予算区分 県単  
(4) 担当者 岩見光一・高橋成二

### (5) 目的

丹沢大山周辺の市町村では、1995年頃から山麓部の里山にもヤマビルが出現し地域住民の生活環境を悪化させている。また、ヤマビルの生息は観光や農業など地域振興のうえからも深刻な問題となっており、効果的で緊急的な防除対策が求められている。しかし、ヤマビル防除対策の基本となるヤマビル生息域についてはこれまでほとんど調査が行われず不明なため、県内のヤマビル生息の現状を解明するための生息分布調査を実施した。

### (6) 研究方法

#### 生息分布の変遷

1945年以前のヤマビル生息地とその後の生息地の経年変化などを調べるため、林業関係者（6名）、治山・砂防事業関係者（5）、東丹沢の地元住民などから聞き取り調査を行った。また、2006年に実施した丹沢大山総合調査なども踏まえ、県内のヤマビル生息域の拡大傾向とその要因などについて考察した。

#### ヤマビル生息マップ2007

ヤマビルの生息が確認されている丹沢大山周辺の4市1町1村（相模原市、秦野市、厚木市、伊勢原市、愛川町、清川村）及び生息域に隣接している西丹沢地域の2町（松田町、山北町）を調査対象に、集落を単位とする2007年10月時点のヤマビル生息状況調査を実施した。このうち4市町（秦野市、厚木市、伊勢原市、愛川町、清川村）については各市町村の協力を受け生息現況調査を行った。また、3市町（相模原市、松田町、山北町）については、独自にヤマビル生息状況の現地調査を行い、同年12月に調査結果を取りまとめ、市町村の報告と統合して「ヤマビル生息マップ2008」を作成した。

独自調査は、市町村から寄せられたヤマビル生息報告を基に1市町村毎に数地点確認調査を実施したほか、市民や県民などから寄せられた生息情報に基づき表丹沢地域西部と生息が未確認な西丹沢の境界域、及び東丹沢地域の愛川町や北丹沢地域に接する旧藤野町の集落周辺町道や林道・歩道などを踏査し、ヤマビル生息域の最前線位置の確認と西丹沢地域における点的な生息地の確認調査を行った。また、確認方法は調査地で大型野生動物（ニホンジカ、イノシシなど）の獣道を見つけ、その周辺でヤマビルの生息を確認する方法で調査した。

### (7) 結果の概要

#### 丹沢山のヤマビル原生息域と生息域の変遷

1945年（昭和20年）以前のヤマビル生息地は、津久井郡鳥屋村奥野地内（当時）を流れる早戸川流域の右岸、現在の国際マス釣り場から丹沢山と蛭ヶ岳を結ぶ北面の沢筋や中腹域にわずかに生息していたことが判明した（図-1）。また、1955年（昭和30年）頃には早戸川に隣接する水沢川上流の伊勢沢や井戸沢、愛甲郡清川村の宮が瀬金沢、中津川左岸の青藤沢、桶小屋沢、ヒル沢流域の一部に生

息地が拡大し、1965年（昭和40年）頃には中津川の右岸の三峰山北面の唐沢川流域に拡大、1975年（昭和50年）頃には塩水川や本谷川流域、札掛周辺にまで拡大していたことが解明できた。さらに、1985年（昭和60年）頃には北丹沢の道志川左岸の津久井郡津久井町（当時）青野原の一部地域や東丹沢の清川村宮が瀬、厚木市の不動尻沢、二の足沢にある県や市のキャンプ場周辺とその上流にかけて生息域が拡大し、1995年（平成7年）頃には東丹沢地域の清川村、愛川町、厚木市や表丹沢地域の伊勢原市、秦野市の山麓部の各地や生活域にまで、ヤマビルの生息域が拡大していることが林業関係者や治山砂防関係者などからの聞き取り調査で確認された。

#### 県内におけるヤマビルの生息状況

2007年10月末におけるヤマビルの生息状況は、「ヤマビル生息マップ2007」図-2に示したとおりである。ヤマビル生息マップを丹沢大山総合調査学術報告書の2001年及び2005年ヤマビルの分布（図-3、-4）と比較したところ、この数年でヤマビルの生息域が丹沢北部と東部及び西部方面で顕著に拡大していることが確認された。

また、独自に行った生息地調査ではニホンジカなど大型野生動物のものと見られる獣道周辺の多くの地点でヤマビルの生息が確認された。

地域的な特徴としては、これまでヤマビルの生息が確認できなかった西丹沢地域で、松田町と山北町の一部で新たな生息地が数カ所確認され西丹沢方面へヤマビルの生息域が拡大している傾向がみられた。また、北丹沢地域では道志川右岸の相模原市津久井町青野原地区のヤマビルの生息域が東西方面に拡大するとともに、道志川を超え旧藤野町牧野地区の一部にも進出していることが確認された。さらに東丹沢地域では旧津久井町の長竹地区や愛川町三増地区、下流の八菅山地区にまで拡大していることが確認され、表丹沢地域では2006年の調査で生息地が散在的な生息が確認されていた秦野市の四十八瀬川流域が、山麓部から上流にかけて全域高密度なヤマビルの生息地となっていることが確認された。

#### ヤマビル生息マップ2007の作成

関係市町村の協力を得て2007年10月末の本県のヤマビル生息地を取りまとめたヤマビル生息マップ2007（5万分の1）を作成した。

この生息マップは、[自然環境保全センター](#)の情報ステーションであるe-TANZAWAに掲載し、今後は広く県民などに公開していく方針である。

この生息マップは集落（字）を単位にヤマビルの生息状況を次の3つに区分した。

- A ほぼ全域に生息していると思われる地域
- B 散在的な生息地が広範囲に確認され、今後全域に広がるおそれのある地域
- C 数カ所、点的な生息が確認されている地域

この生息マップを活用する場合の注意事項としては、ヤマビルは乾燥する環境を嫌い山の尾根や舗装された道路、草や落ち葉などないところなど、乾燥した場所や身を隠すものがない場所では、ほとんど生息していないということである。このため、Aの地域でも上記のような場所にはほとんど生息していないので使用する上で留意していただきたい。

現地調査でヤマビルの生息する場所を調べた結果では、「寄主となった野生動物の足跡や獣道が多く見られる所」「湿度が比較的高い所（ただし、川の中や田んぼなど水たまりの場所にはいない）」、「身を隠す草や落ち葉、石などがある所」の3つの条件が重なった所に生息していることがわかっている。

このため、生息マップの3つの区分を基本に、上記条件を勘案して活用してもらいたいと考えている。

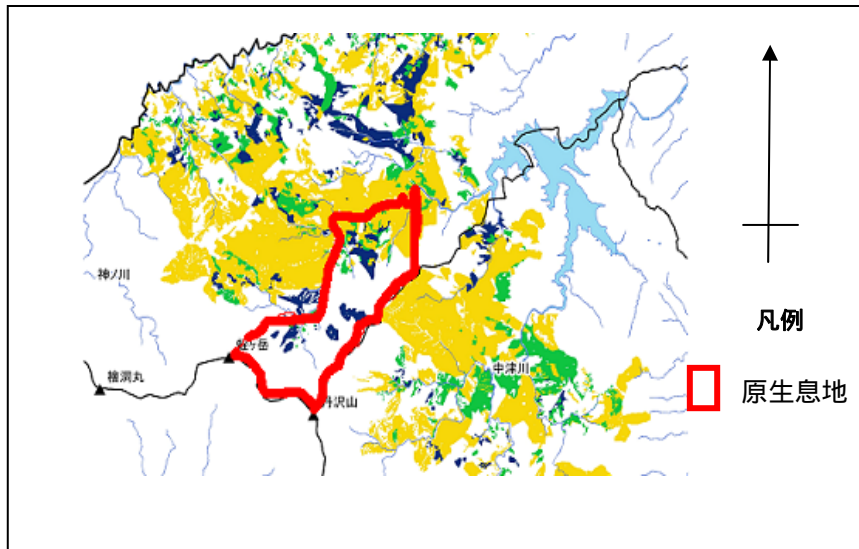
【課題と今後の予定】

課題

・生息域変化の情報を県民や市町村に提供するため、ヤマビル生息モニタリング調査を引き続き実施する必要がある。

次年度の目標とスケジュール

・2008年版の作成



ヤマビル生息マップ(2007年) 1945年以前の本県ヤマビルの生息地

地域区分	市町村	生息区分	生息域
丹沢北部	相模原市	①	津久井町青野原、烏屋、長竹(一部)
		②	藤野町伏馬田、津久井町青根(一部)、青山(一部)、長竹(一部)
丹沢東部	愛川町	①	半原(一部)
		②	半原(一部)、三墳(一部)、棚沢、八管山、田代(一部)
		③	半原(一部)
	厚木市	①	上荻野(一部)、中荻野(一部)、飯山(一部)、下古沢(一部)、上古沢(一部)、七沢
②		下荻野(一部)、飯山(一部)、上古沢(一部)	
	清川村	①	全域
表丹沢	伊勢原市	①	日向(一部)、上柏屋(一部)、子島(一部)、大山
		②	日向(一部)、上柏屋(一部)、子島(一部)
	栗野市	①	小薮毛(一部)、薮毛(一部)、東田原(一部)、西田原(一部)、羽根(一部)、菩提(一部)、横野(一部)、大倉(一部)、三廻部(一部)、上大倉
		②	名吉木(一部)、寺山(一部)、小薮毛(一部)、戸川(一部)、堀山下(一部)、堀西(一部)、三廻部(一部)
西丹沢	松田町	③	寄(一部)
	山北町	③	玄倉(一部)

図-2 ヤマビル生息マップ2007

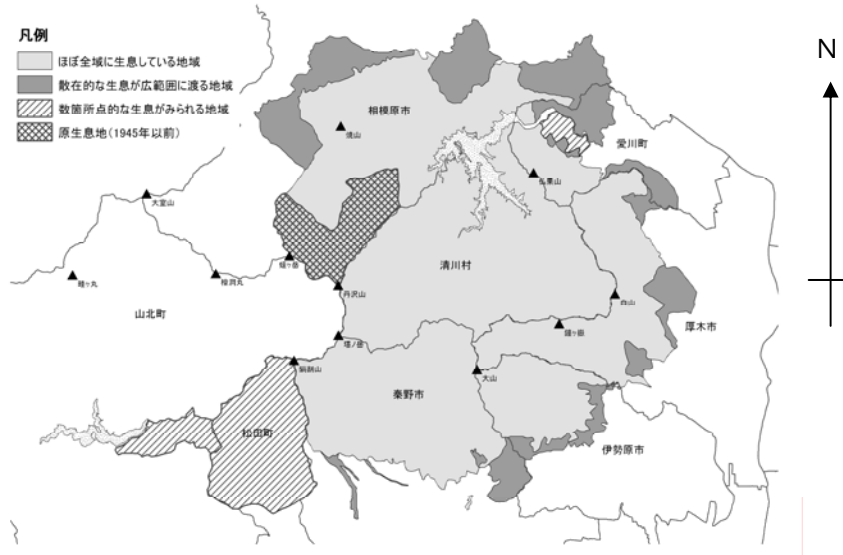


図-2 ヤマビル生息マップ2007



図-3 丹沢大山総合調査報告書P358 (2001年ヤマビル分布)



図-4 丹沢大山総合調査報告書P358 (2005年ヤマビル分布)